

単元のねらい

- (1) ハンドボールの特性や技術の名称などについて理解するとともに、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をできるようにする。〈知識及び技能〉
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、作戦などについての話し合いに貢献しようということ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い教え合おうということなどや、健康・安全に気を配ること、ができるようにする。〈学びに向かう力、人間性等〉

本時で育む主な情報活用能力

C-STEP 4, H-STEP 4
E-STEP 4

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



評価の基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ① ハンドボールにおいて用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて言ったり書き出したりしている。 ② 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。	○技能 ① ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ② 得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。	① 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ② 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ③ 健康・安全に留意している。

単元における学習の展開（全 8 時間）

次	学習内容	主な評価規準【観点】と評価方法
第 1 次 (2 時間)	○ハンドボールの基本・ルールの復習 ・ハンドボールの基本ルールの確認。 ・基本的な技術の復習（ボール扱い、パス、キャッチ、ドリブル、シュートなど）	ハンドボールにおける基本技術を理解し、練習方法について理解し、正しく取り組むことができる。【知識・技能】
第 2 次 (3 時間)	○チーム練習 ・各クラスで 2 チームに分かれ、チームの中で練習をする。（基本のパス、ジャンプシュート、コンビプレイ、パスゲーム、3 対 3 の攻防、4 対 4 のミニゲームなど）	自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。【思考・判断・表現】
第 3 次 本時 (3 時間)	○ゲームを通しての戦術練習。 ・攻撃、守備についてチームで作戦を考え、ハーフコートのゲームを実施。 ・オールコートでのゲーム。	自分たちで考えた作戦を実行するために、互いに意見を出し合いプレイを実践する。【主体的に取り組む態度】

本時のねらいと情報活用能力をはぐむポイント

・本時のねらい

1. 攻撃において、シュートチャンスをつくる動きを考え、シュートを狙ったプレーを継続することができる。（知識及び技能）
2. 課題に対して、チームでの気づきや発見を共有し合い、協力して活動することができる。（思考力、判断力、表現力等）

・情報活用能力をはぐむポイント

- ICT 端末を活用して撮影動画を共有し、各自の視点に基づいてスロー機能を活用したり、繰り返し視聴したりなどしながら、個人やチームの課題を発見することにより、自分の考えを明確にすることができる。
- ICT 端末を活用して発見した個人やチームの課題を仲間同士で交流し、よりよい作戦を考えたり、チーム内の個々の役割を明確にしたりすることにより、課題解決に向け自分の考えを深めることができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ロイロノート（学習支援アプリ）（練習展開表、分析シート）
- ・動画撮影用機器 ・ホワイトボード（分析シート）

本時の展開（第7時/全8時間）

学習の流れ	学習者の主な学習活動と内容	授業者の指導・助言のポイント・工夫
導入 (10分)	○集合・整列・挨拶・出席確認	○出欠確認をおこない、健康状態を把握する。 ○落ち着いた雰囲気の中で挨拶ができるようにする。
	○本時の学習の説明	○本時のねらいを理解させ、見通しをもたせる。
	本時のめあて ・攻撃において、シュートチャンスをつくる動きを考え、シュートを狙ったプレーを継続することができる。（知識及び技能） ・課題に対して、チームでの気づきや発見を共有し合い、協力して活動することができる。（思考力、判断力、表現力等）	
	○ランニング・準備体操・補強運動	○ケガの予防のため、しっかりと準備体操をおこなわせる。
展開 (35分)	○チームごとで作戦会議（5分間） 前回の授業でのチームのプレーを確認したうえで、課題を確認し、作戦会議をする。	○前回の授業での自分たちのプレーを見て、チームの課題を見つけられるようヒントを提示したり、アドバイスをおこなう。
	○チームごとでボールを使ったアップをする。（5分） チームごとにコートに分かれて、パス・シュート・コンビプレイなどの練習をする。 ○ハーフコートのゲームをする。（25分） ・6 vs 6 でゲームを行う。攻撃と守備の入れ替えは2本交代。 ・パスをメインでおこない、ワンドリブルのみ OK とする。 ・ゲームに出ていないメンバーで動画を撮影する。 ・5分間ゲームを3セット。セット間に2分間の作戦会議を行う。（その際、メンバーチェンジもおこなう。）	○チームの課題や、攻撃や守備の作戦にあった練習を提示し選択させる。 ○ゴール前にいる敵に邪魔されない状況にボールを運びながら何度も自分たちがめざすプレーをできるようにする。 ○何度失敗しても認められる雰囲気を大切にたくさん挑戦できるようにする。 ○よい点や努力している姿を積極的に称賛する。
まとめ (5分)	○片付け ○本時の振り返り、次時の説明。	○協力して素早く片付けをおこなえるようにする。 ○振り返りカードに、作戦会議の内容とゲーム内容を踏まえて、自己やチームの変化、感じたことや気付いたことを記述できるようにする。 ○本時のまとめをおこない、次時におこなうことを確認する。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・【練習展開表】

ハンドボールのそれぞれの課題（パスキャッチ・ドリブル・シュートなど）に対する練習方法が示された練習展開表を事前に学習者と共有しておくことで、チーム練習のときに自分たちで練習の内容や時間の割り振りといった練習計画を立てることができる。

・【分析シート】

チームで相談するうえで分析シートを活用させる。①フォーメーションや理想的なプレーを相談し計画を立てる。②実際に試合をおこなう。③自分たちの理想的なプレーと実際のプレーを比較し、どこに課題があったのか分析する。④課題に対して、次の試合ではどう動くか、どのような練習を取り入れるかといった解決策を考える。分析シートを活用することによって、保健体育としてのものごとを分析する視点を示す。教科としての「見方・考え方」を学習者が働かせ、学習者自身が主体的に①～④のPDCAサイクルをまわす工夫とした。
分析シートは、学習者が常に活用できるようロイロノート（学習支援アプリ）内の資料箱に入れている。

・【共有ノート】

ロイロノート（学習支援アプリ）上に、学習者の書き込みがリアルタイムに反映される各チーム専用の共有ノートを準備する。試合の様子を映した動画や、自分たちの動きに対する分析、課題やそれに対する意見、解決方法を共有できる環境を整えることによって、協働を促していく。また、これらの分析や試合の様子、考えの蓄積が共有ノートに残ることで、単元における自他の成長を実感しやすくしている。